

なりません。つまり、研究テーマに「両義性」があるからこそ、その分だけ学者は自分と社会の関わりについて専門を超えた問題意識を持ち続ける必要がある、と言いたいのです。研究に携わると同時に、学者は一個の知識人として、「防衛装備」（つまり兵器）を政治経済の重点部門とする政策がどういう社会と世界を作っていくことになるのかという問題に無関心であってはならないでしょう。

幸いなことに、と言うべきなのか、本学では軍学共同に対してどういう態度をとるかは、今のところ各教授会の自主的判断に委ねられています。つまりトップダウンではなく研究者の討議に委ねられているわけです。2002-03年に本学でも米軍の資金を受けた研究が行われていましたが、その際にも工学部教授会のしっかりとした見識に基づく討議があったに違いありません（「基礎的研究であるから」との判断であったと聞いています）。要は、この自主性ある環境を大事にして、討議の文化を広めることが重要になっているのだと思います。特に、専門分野を超えた議論がかつてなく求められています。

専門の研究に没頭するのは楽しいかもしれないが・・・

前述の益川氏は、恩師の教室に「二足のわらじがはげなきゃ一人前じゃねえ」という雰囲気があって、それに感化されて専門以外の社会的活動に携わってきたと語っておられます。確かにいろいろな形での「二足のわらじ」が、今こそ必要であると思います。専門に没頭していれば、それはそれで楽しいかもしれませんが、分野を超えて語り合うことも面白いのではないのでしょうか。今、自由があるうちに、大いに語り合うべきではないでしょうか。
(高橋克也・教養学部教授)

★教職員交流会を開催しました！！★

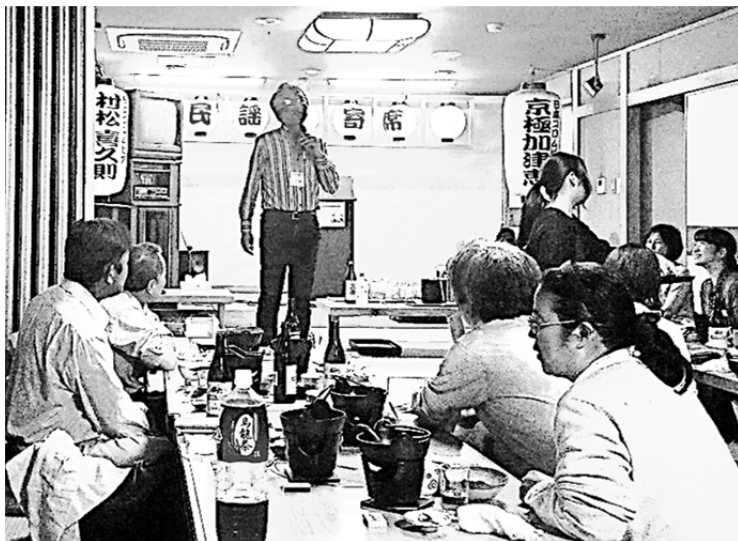
～2016年5月20日松栄庵にて～

さる5月20日、埼大通りヤマダ電機向かいの松栄庵にて、本年度1回目の教職員交流会を開催いたしました。当日は、28名もの方々にご参加いただき、近年まれにみる大盛況にて会を終えることができました。

部局や所属の違い、教員や職員の区分、あるいは、正規、非正規の枠を越えて、同じ埼玉大学に働く仲間同士が交流できる楽しい会となりました。

当日、馬場久志委員長（教育学部・教授）からも、「教職員組合は労働環境を改善することを使命としつつも、多くの方が交流できる楽しい場であってほしい」とのご挨拶をいただいた次第です。

今後もこのような教職員交流の場を多く持ちたいとかがえておりますので、是非組合の活動にご関心をいただければと思います。



写真：当日の一コマ

埼玉大学教職員組合

〒338-0825

さいたま市桜区下大久保 255

E-mail : saikyoso@gr.saitama-u.ac.jp

URL : <http://kumiai.client.jp>

TEL / FAX : 048-853-5609

内線 : 3160

組合事務室は第2生協1F

開室時間：月火水木 12時～17時

